

緑化だより

No.207 令和6年8月号



ユウゲショウ

- 季節の花 (ベニバナ)
- 水生昆虫の話 (ニンギョウトビケラ)
- 小さな世界こけ (ジョウレンハウオウゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

ベニバナ(くれなゐ)

「紅(くれなゐ)の 深染め(こそめ)の衣(ころも) 色深く

染(し)みにしかばか 忘れかねつる」

作者不明 万葉集 卷 11-2624

これを訳しますと

(ベニバナで 念入りに染めあげた着物の色の深さのように あの人が心に深く染みついでしまったせいかな 忘れようにも忘れることができません)

「紅(くれなゐ)」はベニバナの古語です。赤い色は古くから聖なるものとされ、悪魔の侵入を防ぐ力があると信じられており、エジプトの遺跡から発掘されたミイラを包んでいた布帯も紅花で染められていました。日本でも生命力や情熱を象徴する色とされ、特別な儀式や行事で用いられることが多かったため、一般の使用が禁止されていました。

ベニバナの原産地はエジプトで、キク科ベニバナ属の1~2年草本植物です。花は梅雨前後に咲き、鮮黄色~紅黄色のアザミに似た鋭いトゲのある頭花をつけます。

日本には中国から朝鮮半島を経て6世紀末~7世紀初めの推古天皇の時代に渡来したと言われてい

ました。和名は花から紅を採ったところから紅花と名付けられました。古語の「くれなゐ」は「呉の藍」がなまったもので、「中国の呉から渡来した藍に似た染料」の意味です。



ベニバナ

最上地方には「^{はんげいちりんざ}半夏一輪咲き」という言葉があり、最上

^{べにばな}紅花は夏至から数えて11日目の「^{はんげしょう}半夏生」の頃にまず一輪咲き、そのあと次々と咲くそうです。

紅花は農家の人が手間暇かけて、朝露でトゲが柔らかくなった花を摘み採り、複雑な工程で、水に溶けない紅を抽出して「^{べにもち}紅餅」を作ります。作られた紅餅は最上川流域を下り、^{きたまえぶね}北前船で京都まで運ばれ、^{ほおべに}西陣織の染色や化粧用の口紅や頬紅に加工され珍重されました。

^{でわ}出羽の国では室町時代後期に紅花の栽培が拡大し盛んになり、現在の山形県に引き継がれています。

今もベニバナは山形県の県花として毎年「紅花まつり」でにぎわっています。(上村)

水生生物の話

ニンギョウトビケラ

一年で最も暑い季節になりました。川の中の生き物たちが、羽化して飛びまわっています。夜になると街灯や窓の明かりに、様々な虫が集まります。

今回ご紹介するのは、山口県で民芸品にもなっているトビケラの仲間で、トビケラ目ニンギョウトビケラ科ニンギョウトビケラ属の「ニンギョウトビケラ」です。

日本には8種類いるとされていて、幼虫が区別できるのは4種類と、まだまだ研究段階の興味深いトビケラです。

ニンギョウトビケラの名前は、幼虫が作る巣の形に由来しています。この水の中のミノムシさんは、小さな石粒を使って上手に円筒形の巣を作るのですが、水流に流されないように横に大きめの石粒を3~4対つけているのが特徴で、その石粒でできた巣の形が人形に似ているので「ニンギョウトビケラ」となったわけです。

北海道、本州、四国、九州に広く分布しており、幼虫は上流から中流の流れが遅い場所や湖沼にも生息し、体長は10~13mm。石の表面に生える藻類や落ち葉などを食べています。



ニンギョウトビケラ

大きな石の表面を丁寧に探すと、人形の形をした石粒の巣がくっついているのを割と簡単に見つけることができます。

幼虫は、しばしばミズバチの幼虫に寄生するようで、寄生された幼虫は巣からヒラヒラと長いリボンのようなものが出てくるんだそう。

この石の巣は「石人形」と呼ばれており、江戸時代から岩国の錦帯橋土産として知られているそうで、仏像や七福神などに見立てられ、古くから愛されています。

ご興味のある方は、岩国石人形資料館のホームページを検索してみてください。いろいろ詳しく紹介されていて面白いですよ！（西村）

小さな世界 こけ

ジョウレンホウオウゴケ

緑化センターのシャクナゲロードの溪流でクサリゴケの仲間を撮影したところ、同じ石に微小なコケが写っていました。拡大してみるとホウオウゴケの仲間のように……。

同定をしてもらったら“ジョウレンホウオウゴケ”とのこと。

ホウオウゴケの仲間は世界に900種、国内に約100種あり、大きさも10cm~0.1mmと様々です。

代表的なものとしてホウオウゴケ、トサカホウオウゴケなどがあり、この仲間の特徴は茎の左右に平たく葉をつけています。

これを中国の想像の鳥、鳳凰^{ほうおう}の尾羽に見立てて名づけられました。又、ジョウレンホウオウゴケは発見地の伊豆半島浄蓮の滝に因みます。

ジョウレンホウオウゴケは、水中や水しぶきのかかる岩に生育しています。茎の長さ3~9mmで、4~10対の葉をつけ、葉は約2mm前後の披針形で先は細く尖っています。葉の縁に特殊な形の細胞が並び、船べりになぞらえて舷^{げん}といひます。葉の先端直下で舷が消失するのが本種の特徴です。

12月頃から作り始める孢子体は、蒴柄、孢子のうを合わせても約5mmの大きさです。

環境省絶滅危惧Ⅱ類、広島県Ⅰ類に指定されています。（山根）



溪流の石に生育している“ジョウレンホウオウゴケ”



ジョウレンホウオウゴケ(拡大)



ジョウレンホウオウゴケ孢子体

研修会のご案内

- 8月4日(日)『水生昆虫を探してみよう』
溪流の水生昆虫を採集して、観察します。
5歳以上小学生以下対象(小学3年生以下の児童が
複数参加の場合、保護者は2名以上つくこと
※要予約(定員に達しました)、無料、雨天中止
 - 8月4日(日)『夏休み自由工作塾』
※自由参加、(随時受付)、材料費1作品100円
 - 8月18日(日)『親子いけばな教室～森をいけよう～』
木の枝と花を使って、森や林の風景をいけます
※要予約(先着20組)、材料費800円
 - 8月18日(日)『夏休み自由工作塾』
※自由参加、(随時受付)、材料費1作品100円
 - 8月25日(日)『はじめてのコケテラリウム』
コケテラリウムに挑戦!初心者向き
※要予約(先着20組)、材料費1,000円
 - 8月25日(日)『夏休み自由工作塾』
※自由参加、(随時受付)、材料費1作品100円
- 10:00～12:00 第2駐車場 集合
講師：環境カウンセラー
西村 浩美
- 10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧
- 10:00～12:00 学習室 集合
講師：嵯峨御流広島芸南司所
司所長 青野 直甫
- 10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧
- 10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
長井 稔
- 10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧

☆お知らせ・ご案内 ☆♪

- ・8月土、日、祝日は5時まで開園します。
- ・8月～12月、下水処理場工事のため園内の一部で規制がかかる場合があります。

第8回ひろしま遊学の森

四季の移ろい写真コンテスト

写真募集中 締切り;11月30日(土)

詳細はHP,チラシでご確認ください。

◎展示会

場所: レストハウス

(ボード展示)

- ・広島県愛鳥週間ポスター入賞作品展 ～8月4日(日)



令和5年度広島県愛鳥週間
ポスター入賞作品展より